

ジュニアリーダー目指して、出発！

8月16日から熊本県で開催された「平成25年度ジュニアリーダーくまもと大会」に、新川帆南美さん（知念高2年・写真中央左）



と比嘉姫春さん（興南高2年・写真中央右）が沖縄県代表として参加することになり、7月23日に派遣助成金の交付が行われました。

この大会は、全国各地の子ども会組織のジュニアリーダー（中学・高校生）が参加して行われるもので、情報交換や体験学習を通して資質の向上や地域活動の充実を図ることを目的に開催されます。

ビーチバレーの熱戦を展開！

第68回国民体育大会ビーチバレー競技の九州予選となる九州ブロック大会（（公財）日本体育協会・九州バレーボール連盟主催、西原町・同教育委員会・同体育協会後援）が、7月20日と21日の2日間、西原さらさらビーチで開催されました。大会には九州各県の代表が出場し、熱戦を展開。成年男子は佐賀・沖縄・宮崎・福岡県、成年女子は福岡・沖縄・鹿児島・熊本県が、東京国体の九州ブロック代表に決定しました。



まちの話題

2013

道路をきれいに、川を美しくしよう！ —平成25年度道路・河川愛護デー実施—

地域の環境美化に関心を持ち「道路、排水、河川愛護の心」を高めることを目的に「平成25年度道路・河川愛護デー」（西原町主催、西原町産業通り会・（公社）西原町シルバー人材センター共催）が8月2日に実施され、町道内間小那覇線と小波津川周辺の清掃活動が行われました。

清掃活動には企業関係者や町シルバー人材センターの会員など、約250名が参加。各企業や団体が草刈り機や重機を持ち寄り、大掛かりな清掃活動が展開されました。



児童館フェスティバル大盛況！

町立の3児童館が主催する合同イベント、西原町児童館フェスティバル「遊びのかんづめ、ドッカ〜！行かん？児童館！」が、7月13日に西原町中央公民館で開催されました。

オープニングイベントでは、棚原弥勲太鼓の演舞やバルーンショー、大型紙芝居の読み聞かせなどが披露され、ステージを華やかに彩りました。

また「コーナー遊び」と題したイベントでは、各児童館が企画したさまざまなコーナーが催されました。来場した子どもたちは、ゲームやものづくり、パズルなど、思い思いにコーナーを楽しみました。



七夕の夜の読み聞かせ



町立小中学校で活動する読み聞かせボランティアが構成するネットワーク団体「読みあいネットワーク喜楽星☆7」（比嘉清美代表）が主催する読み聞かせイベント「あっと〜めーのささやき」が、7月7日に西原町立図書館の前庭で開催されました。

今回で8回目を迎えた本イベントは「繋ぐ」という言葉をテーマに、夕方から日暮れにかけてさまざまな絵本の読み聞かせが行われました。また、ゲストで出演した由井恭世さんのキーボードの演奏、リコーダーアンサンブルのミニコンサートなどが披露され、参加した多くの親子がイベントを楽しみました。

内間団地自治会 30周年の節目にコミュニティ助成

宝くじの普及事業である「平成25年度コミュニティ助成事業」の助成を受け、県営内間団地自治会（知念直也会長）が、コミュニティ活動備品の整備を行いました。

知念会長は「内間団地自治会は西原初の県営団地として、昭和58年の自治会結成以来、今年で創立30周年を迎えた。他の自治会のように伝統、歴史を主体にして、住民協力のもとスポーツ、文化面でも町の行事に参加し、発展に寄与してきた。コミュニティ活動備品の整備が整い、各団体（婦人会、青年会、子ども会、老人会）の活動、月1回の住民清掃作業等を活発にしたい」と喜びを語りました。同自治会では今回の事業を通じて、テントやイス、テーブルなどの備品、エイサーのウチカケや締太鼓などを揃え、今後の活性化に活用します。



お弁当作りを通じて、親子で成長を

～「弁当の日」が人と人をつなぐ講演会in西原町～

香川県綾川町立滝宮小学校の元校長で、同小学校で「弁当の日」に取り組んだ竹下和男さんの講演会『「弁当の日」が人と人をつなぐ講演会in西原町（西原町主催）』が、7月22日に西原町中央公民館で開催されました。

竹下さんはこれまで全国で約1300回の講演を行い、弁当の日の推進に努めてきました。竹下さんは子育ての重要性について「人は、他人の役にたつことを証明したがる。子どもも同じ。『何かやることある？』と聞いてきたら、役に立ちたいというアピール」と説明。さらに、できることをさせ、役立ったということ伝えて、ほめてあげることが大切と話しました。

滝宮小学校で実施した弁当の日では、月に1回、児童が自分の手で作った弁当を持参する日を設定したそうです。「どれだけがんばって自分の手で弁当を作ったか、子どもたちは人と比較し、嬉しさ、くやしさを覚える。それが親に伝わり、親が気づく。そうやって子どもと一緒に親も変わっていった」と紹介し、「子どもが成長するための場面設定をすれば子どもは育つ、その場面を作るのは、親であり、周りの大人」と、弁当の日の推進を呼びかけました。



西原の歴史と向き合う

悲惨な戦争の歴史から、戦時の西原の実情を次代に語り継ぎ、平和の尊さを考えることを目的に、町内戦跡講座（平成25年度西原町中央公民館主催講座）が、6月2日から7月14日の期間で開催されました。

全6回の講座のうち、7月7日に行われた戦跡めぐりでは、棚原や幸地の戦跡を受講者が訪れ、見学しました。また、文教のまちガイドのメンバー、玉那覇三郎さんと遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の高江洲善清さんがガイドを務めました。

棚原や幸地などの一帯は、首里に近いので、首里防衛の激戦地となった地域といわれています。そのため、棚原にあった野戦病院壕の跡地や幸地の陣地壕では弾痕や遺品が今でも確認でき、参加者は現場を見学しながら、戦争の悲惨さを実感しました。

また7月27日には「町内戦跡講座」（ニシバル歴史の会主催）が開催され、町内外から22名が参加しました。



参加者はガイドの解説を聞きながら、弾痕の残る石垣や旧役場壕、町内各地にある陣地壕などを見学。悲しい歴史を二度と繰り返さないようにと、平和への思いを寄せました。